

専修大学LLだより

目次

特集 各言語のススメ

Get Your Headphone (LL 研究室長 三浦 弘)	2
はじめて学ぶ外国語とマルチメディア (文学部 樋口 淳)	3
土台を固める エーンヤコーラ! (経済学部 寺尾 格)	4
マルチメディアで外国語の学習が大好きになる授業 (経済学部 岩淵 孝)	5
ビジネス英語ってどんなもの? (商学部 岡田 もえ子)	6
フランス留学で考えたこと (大学院生 山岸 拓郎)	7
LL インフォメーション	8
(LL 教室機器操作講習会のお知らせ / LL ガイダンスのお知らせ / LL 主催行事の紹介 / LL スタッフ紹介 - 生田校舎)	



生田校舎 LL 教室・自習室 入り口付近

LL 研究室

Get Your Headphone



Get Your Gun ではない。銃ではなく、ヘッドフォンをとれ。LL 自習室を利用して、武器としての外国語を身につけましょう。

就職、昇給、リストラと戦うために、語学力が不可欠の時代になりました。職階別年俸制をとる企業が増えています。英語力不足で昇進できない。中堅になって、ある一定の地位にいないければリストラに遭う。こんな厳しい日本社会に立ち向かう学生みなさんが今やらなければならないことの1つは、語学力を伸ばすことです。

授業を受けること、その予習と復習をすること、自分が選んだ参考書を計画的に仕上げること、いずれも骨格として大切です。文法・語彙・音声という基本がなければ、語学力を伸ばすことはできません。しかし、外国語を実際に使えるようにするためには、さらに努力が必要です。

ネイティブ・スピーカーの先生や友人と話をする場合は、アウトプットの練習として、たしかに無いよりはあった方がいいでしょう。そんな授業や機会が週に5時間あったとしても、それだけでは全然足りません。留学をして、外国語圏で暮らしたとしても、語学力を伸ばすには、単語や表現を覚える、

という作業が要求されます。

膨大な量の自然な外国語に触れて、自分の目にとまった(使いたいと思った)表現を、発音の練習をしながら覚えるという、地道な努力が大切です。そんな勉強は始める前には耐えられないだろうと思われがちですが、やってみれば、はまってしまって結構楽しいものです。

洋書や新聞や雑誌の多読(多読といっても、自分のペースで分量を制限する)ニュースや洋画の視聴等、時間を割いて、自然な外国語に接しましょう。

LL 自習室には語学学習のための機器と教材があります。パソコンブースも語学のためのコンピュータですから、音声を扱うことが前提に設置されています。パソコンブースで、インターネットとCD-ROMを利用し、オーディオブースでは、CD、MD、カセットを、そして、ビジュアルブースで、キャプション表示付きのVHSビデオ、LD、DVDを使いましょう。教材は豊富に取り揃えられています。検定対策教材、定期刊行物、会話教材はもとより、リリースされたばかりの洋画DVDビデオもあります。

DVDビデオでは、外国語と日本語の音声切り替えられ、字幕表示も自由自在(外国語と日本語、さらに吹き替え用スクリプト)です。手始めに、週に1本の洋画を観に来てください。自分のペースで楽しく学習を続けましょう。

LL 研究室長 三浦 弘

はじめて学ぶ外国語とマルチメディア

大学に入って始めて出会う外国語を、どう身につけ、どう活用したらいいのでしょうか？

この難問にお答えします。

まず、大切なのは授業です。中学・高校時代は、6年かけて英語を勉強したのだけけれど、大学では、ほぼ2年間でそのレベルに到達することを要求します。まあ、中学の課程を1年目で、高校の課程を2年目でと考えると分かりやすいかもしれません。だから、授業には繰り返しがほとんどなく、さぼったらそのまま置いていかれる。「ひと通りのことは、教えるから、あとは自分で身につけなさい」というのがキホンなのです。

そこで役にたつのが、必修以外の会話の授業や、LL教室の機器。

まず、大学は語学学校とちがって、いくつ授業をとっても料金はかわらない「定額制」であることに注意しましょう。ケイタイだって「定額」なら、「使いほうだい」で、イッシュウケンメイ使うでしょ。同じように大学のサービスを使い切れればいいのに、みんなけっこうムダしてる。LL教室は、今年からタダです。会話の授業も、ムリヨウです。語学の学習相談も、予約をとれば「専門家」が丁寧にお答えします。

語学の学習というのは、それぞれニーズがちがいます。音楽や映画に関心のあるひと、ソムリエやパティシエをめざすひと。国際機関や外資系の企業で働きたいとか哲学のむずかしい原書を読みたいとか、旅行で苦労しないようにとか、いろんなレベルがあります。でもまあ、とりあえず必修の授業を落として卒業できないなんて惨状を回避したいという差し迫ったモンダイもある。そうした「現実的課題を克服し、夢を実現しなきゃいけない」のがワカモノの特権であり、つらいところでしょう。

専修大学には、そのためにいろんなプロ



グラムがあります。語学の短期研修とか、海外の協定校への留学とか。とりあえず1ヶ月、つぎに1年、日本以外の国ですご

してみる。その準備のためには、まず授業を使いこなして、センセイを使いこなして、LLのコンピュータを使いこなしてやるくらいのファイトがいらいます。とにかく大学に入って、みんな同じスタート台にたって始めるんだから、イーブンでしょ。

しかも、専修大学のLL機器は、かなり最先端です。おまけに情報科学センターのコンピュータもある。インターネットやDVDのおかげで、飛行機にのらなくたって、そのままワープして日本を脱出できます。外国語の学習には、ヴァーチャルな体験も大切です。LLテープライブラリーには、いろんなソフトがあるので、上手に利用してください。もちろん「外国語検定攻略法」なんてジミなものもあります。まず生田校舎の1号館地下のLLテープライブラリー・LL自習室や神田校舎地下のLL自習室をのぞいてみましょう！！

もっと知りたい人は、

higuchi@isc.senshu-u.ac.jp までメールをください。

文学部 樋口 淳(フランス語)

昨年までは、LL教室を使用した科目を履修する際にLL実習料が必要でしたが、今年度より必要なくなりました。

土台を固めろ エーンヤコーラ！

4月最初の講義は、学生諸君の側のみならず、教える側にとっても、独特の緊張が要求される。とりわけドイツ語のように初めて触れる外国語では、導入の良し悪しが決定的に重要となる。

従って導入には多くのエネルギーを投入して、様々な工夫を行うのだが、実は大学での講義とは、外国語であれ、**学であれ、いずれも恐ろしく奥の深い世界を、ほんの少しだけ垣間見る入門過程に過ぎない。わずか一年や二年程度では、それぞれの学問分野の初級程度が、かろうじて概観できるかどうか？むしろ学生諸君の様々な興味を涵養しつつ、今後の人生を切り開く知的な土台を鍛えるというあたりが、大学の本来の趣旨であろうと思われる。

これを外国語に即して見れば、一から十までを懇切丁寧に・・・というのでは、おそらく前提から少し違う。そうではなくて、その言葉を学ぶための土台は大切にしなければならないが、土台ができあがれば、その後は「教わる」ものではなく、各自が自分で「身につける」ものなのである。

もう少し具体的に言う。外国語を学ぶとは、知識のみに単純化すれば「語彙」と「文法」を学ぶということである。ひとつひとつの「単語」の意味と発音、次にその単語の並べ方の規則、すなわち「文法」が了解されていること、この二つがさしあたりの目標である。しかし実は、その二つが本当に確実に土台となっているのだろうか？ということである。それは「語彙」が足りないとか、「文法」が苦手だということではない。そんなものは、一步一步「自分で」積み上げてゆけば良いのであって、そうではなくて「土台として」身につけているかどうか？を問題にしたいのである。

例えば中学程度の英語で、任意の易しい単語や文章を口に出して見よう。それは果たして「外国語」であろうか？つまり相手



に通じるレベルの表現となっているだろうか？別に流暢に話す必要は無いし、日本語風の発音でも構わないのだが、いずれのコトバであれ、そこを間違えたら通じないよ！というポイントがある。

失敗談をひとつ。(外国語を勉強していれば、誰であれ失敗談には困らない。ソウイウモノナノデス！)ウィーンの街角で言った「クロワッサン！」が通じなかった。なじみのパン屋の親父さんは、その場で特訓？してくれて・・・「違う！<クロワ>(1音節)<サン>(1音節)だ！」わかりますか？実はノドのrと鼻母音も大切なのですが、最も肝心なのは、「ク・ロ・ワ・ッ・サ・ン」と日本語風に6音節ではなくて、わずか2音節なのです。

あるいは・・・いや、まあ、失敗談はいくらでもあります。要するに外国語の導入と土台が大切だというのは、ただ机にかじり付いて問題を解くように、知識だけを頭に叩き込むのではなくて、「実際の」「現場の」「直接の」というレベルを自覚してくれば、何を土台として鍛えればよいのか？が自ずと理解できてくるはずだと言いたいのです。

そういう授業をやりたいと思っています。

経済学部 寺尾 格(ドイツ語)

マルチメディアで外国語の学習が大好きになる授業



本学ではマルチメディア教室を使った外国語授業が毎日行われている。マルチとは複数という意味で、メディアとは言葉を伝える手段という意味である。言い換えると目、耳、口、手をすべて使う機器が用意されていて、外国語の学習が必ず大好きになる施設である。

これらの機器が備わった教室を『LL (Language Learning) 教室』と呼び、生田校舎 1 号館と神田校舎に最新の設備が整っている。生田校舎の LL 施設は LL 教室、CALL 教室、LL テーブライブラリー、自習室があり、神田校舎には CALL 教室と自習室がある。

LL 教室 A を例にとると、ビデオは先生から全員にかつ一斉に同じように流されるのではなく、個々の学生がビデオ機器を操作するように、自分が見たいように止めたり進めたりすることができる。このような学習方法を個別学習と呼び、日本全体で最も進んだビデオによる学習方法である。

その他 MD、カセットレコーダー、パソコン、プロジェクター等の教材提示機器は全てそろっていて、質の高い、したがって学習効果が高い状態で教材を学生に出すことができる。また、学生は、ブースと呼ばれる特別の座席にひとりひとり座り、マイクがついたヘッドフォンを使って外国語を聞いたり、ペアワークで会話練習をしたりできる。このヘッドフォンも高音質の音声聞ける。少し雑音が混ざった音声の方が聞き取り能力の向上に役立つという説もあ

るが、それは中・上級の場合に言えることで、初心者はできるだけ音質の高い音声を聞いた方が記憶が良くなり効果的な学習ができる。

LL 教室 A では、ひとりひとりにパソコンが用意されているので、聞いたものを書き取るディクテーションをワープロ機能を使って行うことができる。ディクテーションは聞く能力を高める上で極めて効果が高い。パソコンのもう一つの機能はインターネットである。リスニングの教材をたくさん集めたサイトが多数ある。もう一つの機能は CD-ROM 教材である。

マルチメディア設備を使った授業は様々なものが展開されている。上述のように、ビデオを各学生が自由に操作して画面の動画を見ながら聞き取りに集中できる。このように作成されたビデオ教材は本学 LL 教室では EOD と呼んでいる。私が作成したこの教材は 3 つのタイプのビデオからできている。動画と音声だけのビデオ、画面と完全に同期してスクリプトがついたビデオ、ビデオの進行が中断されて内容理解の問題が途中でいくつか出てくるビデオである。これらのビデオを学習したあとで、動画と音声だけのビデオを一斉に見せて穴埋め式のディクテーションを行う。

自習室が充実していることも本学の LL 教室の特徴である。LL 教室 A と同じコンピュータを使った学習機が備わっている。また、付属テーブライブラリーには約 2,400 点の教材が備わっているため、空き時間にビデオ、カセット、CD-ROM 等を大いに利用していただきたい。

経済学部 岩淵 孝 (英語)

ビジネス英語ってどんなもの？

皆さんの将来の夢はなんですか？エンジニア？営業マン？企業経営？NPO？パイヤー？今やどんな仕事に就いても英語がかわってくる時代になってきています。

一昔前までは「英語を使う職業」というと、通訳翻訳、企業の国際部、駐在員、国際線スチュワーデス、英文秘書などある程度限られていたと思います。しかし現在はIT化が進み社員一人一人にコンピューターがあてがわれ、誰もが簡単にメールで海外とのやり取りが可能になり、企業でもかつての様な国際部の人間だけでなく、一般の部署に配属されても英語を使わざるを得ない状況になりつつあります。

では、仕事で使う英語とは一体どんなものなのでしょうか？一般によく《ビジネス英語》と言う言葉を耳にしますが、実はこれには大まかに言って二種類あると思われる。一つは、オフィス内（社内）での事務的な仕事を英語で行うことで「オフィス英語」と呼ばれる類のもの。具体的には、電話対応、ファックス、メール、手紙などコレスポンスに必要な英語、および外国人来訪者の対応の仕方など。これらは一般職の社員を含む全員が行う可能性があり、まず身につけたいのがこのオフィス英語です。

二つ目は、ビジネス（商売）を行う為に必要な英語、つまり本来の「ビジネス英語」。具体的には、交渉、契約（書）、接待などに加え、例えば輸出信用状など貿易に関する書類の作成や取扱、特許用語、会計用語など業種特有の専門用語。これらはより専門的な知識を含みどちらかというと総合職や専門的な仕事に必要な英語です。

以上のことから、皆さんはまずはオフィス英語から始める事をお勧めします。ではどのように勉強すれば良いのでしょうか？実は、皆さんが必修科目として受けている教養の英語とオフィス英語とはさほど変わ

りはないのです。もちろん職場では上司や取引先が相手ですからより丁寧な表現を学ばなければなり

ませんが、基本的には大差ありません。ですからまず英語の基礎力をつけることから始めましょう。基礎的な文法や語彙力があれば後は運用力と必要な専門用語を足していけば良いだけです。実際、専門用語や書類上の言い回しは殆どの場合決まったものを使うことが多いので、一度覚えてしまえばあとは意外と簡単なのです。ですから臆することはありません。

仕事で使う英語というのは「目的」でなく「手段」に過ぎない、ということがお解かりでしょう。英語は仕事の手段であり、また皆さんの趣味の手段にも成り得るのです。ですから好きなことを見つけ、その分野から気楽に始めてみるのも良い方法です。あまり勉強と思わず「楽しみながら」続けるのが上達の鍵です。

また、英語は異文化体験を通じて人生を豊かにしてくれる道具でもあるでしょう。英語が使えるとネイティブのみならず世界中の英語を使える人々と意思の疎通ができます。中国の会社と取引したりイタリア人の友人とお喋りをしたり。英語は世界の「共通語」と認識して下さい。

さあ夢に向かって Let's get started！そして気長に頑張りましょう。社会人になってからでは時間がとれず苦勞しますしお金もかかります。在学中の今こそチャンスなのです。継続は力なり。ローマは一日にして成らず、ですよ。

商学部 岡田 もえ子（英語）



フランス留学で考えたこと

昨年度、本学の交換留学制度を利用して渡仏する機会に恵まれた。期間は1年間。留学先はリュミエール・リヨン第2大学だった。

私はフランス史を勉強しているため、以前からフランス語を「読む」訓練はある程度積んでいた。しかし、「話す」ことや「聴く」ことに関しては、初心者同然であった。仏検のレベルでいえば3級合格程度。そんな状態で渡仏したので留学期間の最初の数ヶ月はたいへん苦労した。「話す」ことができなかったので自分の感じたことや要求を相手に伝えられない。ひどいときには大事な話でもまともにとりあってもらえなかった。また、「聴く」ことができなかったところをいい加減な返事をしたため、相手に誤解を与えてしまったり・・・そんなことの繰り返しだった。このような体験を通して考えたことがある。

まず、「海外へ行けば自然に外国語がうまくなる」という発想は正しくない。本当に「自然に」外国語を習得できる人間など、（おそらくほんの一握りの語学の天才を除いては）いないのだから。なるほど、外国で生活するばあい多くのひとは、必要に迫られ、その国の言語を日本にいるときよりも必死で勉強しようとするだろう。その意味で、海外へ行けば（決して「自然に」ではないにせよ）確かに外国語はうまくなるかもしれない。しかしながら、日本にいながらにして外国語力を向上させることもまた、じゅうぶん可能なのである。

実例を挙げよう。ある日、留学生の集まりがあった。そこに友人が一人の女の子を連れてきた。韓国国籍のその子は、初めてのフランス旅行（フランス「留学」ですらない）にもかかわらず、たいへん流ちょうに、そこにいた誰よりも上手なフランス語を話した。これには驚かされた、なぜなら、

その場には滞仏2年以上の留学生もいたからである。いったい彼女はどのような勉強をしてきたのだろうか。「文法をきっちり身につけ、同時に、会話のカセットテープやCD、MD、ビデオなどをよく活用するならば、自分の祖国にいながらにして外国語を習得することはじゅうぶん可能だ」。彼女はそう教えてくれた。「そのうえで実際に外国を訪れるならば、語学力に関して、効率よく多くのことを学ぶことができるであろう」。

同様に、滞在期間が長くなれば長くなるほど外国語が上達するのかといえば、そうとも限らない。実際、滞仏3年の者よりも滞仏半年の者の方がフランス語を上手に話す、聴く、理解するなどという例は、枚挙にいとまがないのである。

結局、語学が上達するかどうかは、第一に本人のやる気、モチベーションの問題であり、どれだけ貪欲に自分の語学レベルを上げたいかということにかかっているようだ。さしあたりは参考書や授業で文法・単語その他の基礎事項を固めつつ、会話のコースやLL教室を存分に活用して学習するのが望ましい方法であると思われる。

文学研究科歴史学専攻博士後期課程2年
山岸 拓郎



LLインフォメーション

LL 教室機器操作講習会のお知らせ

LL 教室機器操作の講習会を下記日程で開催します。強制ではありませんが、授業にスムーズに入っていくためにも受講を勧めます。また、下記日程で出席できず、受講を希望する人は、LL 事務室窓口（神田校舎学生は自習室受付）へ申し出て下さい。相談に応じます。

場所	日程	時間
生田	4月7日(月)	16:00~16:30
	4月8日(火)	10:00~10:30 14:00~14:30
	4月9日(水)	10:00~10:30 14:00~14:30
	4月18日(金) ~28日(月)	12:10~12:40 (土曜除く)
神田	4月11日(金)	11:30~12:00 17:20~17:50

ガイダンスのお知らせ（生田校舎）

4月7日(月)13:30 から生田校舎において新入生対象のガイダンス「LL 教室を使用する科目の履修について」を行います。新入生は勿論のこと、2 年次生以上で LL 教室使用の授業を初めて履修しようと考えている人も参加できます。

また、LL 教室見学も下記日時で実施しています。自由に参加して下さい。

LL ガイダンス教室

経済学部	331 教室
法学部	332 教室
経営学部・ネットワーク情報学部	341 教室
商学部	342 教室
文学部	231 教室

LL 教室見学

4月7日(月) 14:30~16:00
(上記日程以外にも随時受け付けます)

LL 研究室主催行事の紹介

LL 研究室では次のような行事や語学学習のための手助けを行っています。活用してください。

- 各種セミナーの開催(通訳検定セミナー、フランス語セミナー、中国語セミナー等)
- LL コンピュータ講習会開催(年 2,3 回)
- LL 機器操作講習会開催(4 月)
- 語学学習相談受け付け(随時受け付け)
- LL だよりの発行(年 4 回発行)

LL スタッフ紹介

今号と次号で LL スタッフを紹介します。今回は生田校舎スタッフと TA の紹介です。



左：野村 真理 右：小橋川 真由美

短い時間であっても毎日 LL 自習室に通い、語学学習する学生さんが増えています。そんな姿にこちらが学んだり、パワーをもらったりしています。「前向きな気持ち」と「地道な努力」があれば自分の目標を達成できると思います。窓口でお待ちしています。



TA 笠島 政志

授業期間に生田校舎(週 4 日)と神田校舎(週 1 日)に出向しています。LL 教室の機器操作については私にお任せください。判らないことがありましたら何なりとお尋ねください。

編集後記

日本人は莫大なお金を語学学習得のために使いながら、その成果は今ひとつとされています。即ち費用効率(cost-effectiveness)が低いわけです。今回先生方に紹介していただいた LL 教室のコンピュータ等の機器も高価な設備ですが、少しでも多くの皆さんが利用し効果を上げて、費用効果的な語学学習施設としてください。ローテクの僕は、LL テープライブラリーでカセットテープを借りて、新しい外国語でも始めます。(ほ)

専修大学 LL だより 第 19 号

発行日 2003 年 4 月 1 日
(平成 15 年)

編集発行 専修大学 LL 研究室
室長 三浦 弘

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

URL: <http://www.gkk.senshu-u.ac.jp>

*上記ホームページで「LL だより」をカラーで見れます。